

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	トラメチニブ(低異型度漿液性卵巣がん)
診療科名	腫瘍内科
診療科責任者名	大山 優
適応がん種	がん化学療法後に増悪した 低異型度漿液性卵巣がん
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
入院外来区分	<input checked="" type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	Ov-34
登録日・更新日	2026年4月28日
削除日	
出典	メキニスト錠0.5mg・2mg 添付文書 (2026年2月改訂 第8版) Lancet. 2022 Feb 5;399(10324):541-553.
入力者	鳥井原 彩香

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	トラメチニブ (メキニスト錠)	0.5mg, 2mg	2mg/回	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日1回 空腹時※1	連日

1コースの期間	-
投与間隔の短縮規定	-
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【開始基準】 Hb \geq 9.0g/dL、ANC \geq 1,500/μL、Plt \geq 10万/μL、T-Bil \leq 1.5mg/dL、 AST \leq 80U/L、ALT \leq 100U/L SCr \leq 1.5mg/dL または CrCL \geq 50mL/min QTcB < 480msec</p> <p>【減量基準】 NCI-CTCAE (v4.0)によるGrade判定にて処置する。 ・忍容不能なGrade 2またはGrade 3: 休薬。Grade 1以下まで軽快後、1段階減量して投与を再開。 ・Grade 4: 原則投与中止。治療継続が患者にとって望ましいと判断された場合は、Grade 1以下まで軽快後、1段階減量して投与を再開。</p> <p>【用量調節段階(成人)】 通常投与量: 2mg(1日1回) 1段階減量: 1.5mg 2段階減量: 1.0mg 3段階減量: 投与中止 ※適切な処置により副作用が管理できた場合には、減量時と逆の段階を経て増量可。</p> <p>【発熱時の対応】 38.0°C以上の発熱が認められた場合は休薬。発熱回復後24時間以上発熱がない場合、休薬前と同一用量で投与を再開。38.0°C未満でも悪寒・戦慄・寝汗・インフルエンザ様症状等が再発した時点で休薬を検討する。4週間以内にGrade 1以下またはベースラインに軽快しない場合は投与を中止する。</p>
催吐性リスク	該当なし
前投薬	なし
支持療法(その他)	なし
その他の注意事項	<p>※1 食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2mgを投与する際は2mg錠を使用すること(0.5mg錠と2mg錠の生物学的同等性は示されていないため、0.5mg錠4錠で代替しないこと)。 ・妊娠可能な女性: 投与中および最終投与後16週間は適切な避妊を行うこと。 ・心機能検査(心エコー等): 投与開始前に心機能を確認し、投与中は適宜実施する。 ・眼科的検査: 定期的実施し、網膜静脈閉塞・網膜色素上皮剥離・網膜剥離等の有無を確認する。 ・他の抗悪性腫瘍剤との併用は有効性・安全性未確立。 ・白金系抗悪性腫瘍剤を含む化学療法歴のある患者を対象とすること。